

2009年3月期 決算説明会

2009年5月27日

本州化学工業株式会社
(証券コード:4115)

目次

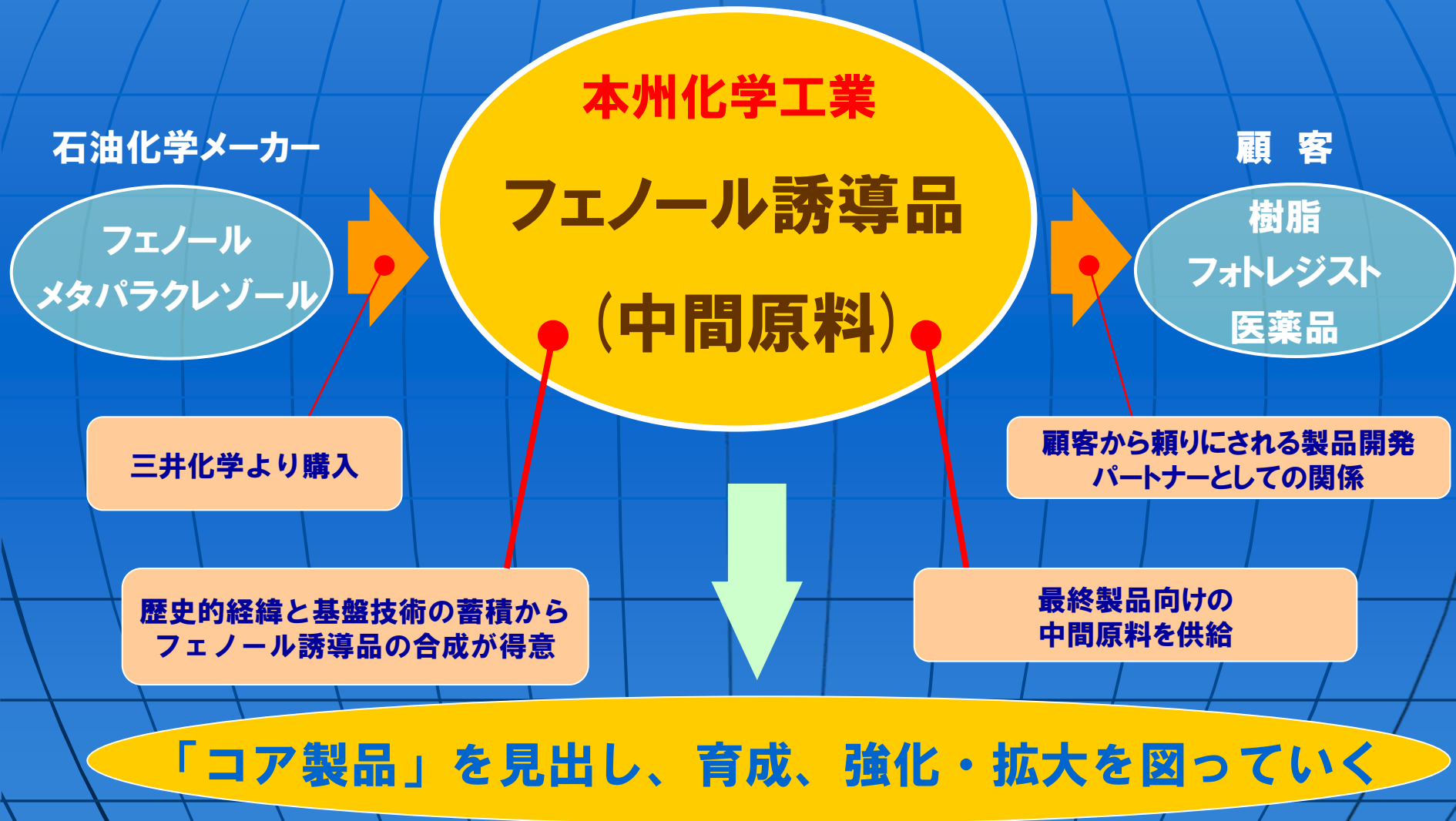
1. 当社の特徴

2. 2009年3月期 実績

3. 2010年3月期 見通し

1. 当社の特徴

フェノール誘導品に特化



フェノール誘導品事業の展開

- 1914年11月 会社設立(由良精工合資会社)
- 1915年 2月 合成フェノールの製造開始
- 1961年 3月 ビスフェノールAの製造開始
- 1971年 1月 トリメチルフェノール(ビタミンE原料)の製造開始
- 1988年 4月 ビスフェノールA事業を旧・三井石油化学工業(株)に譲渡
- 1990年 6月 フォトレジスト材料の生産開始
- 1991年 3月 ビフェノールの製造開始
- 2004年12月 Hi-Bis社(特殊ビスフェノール)の営業開始
- 2008年 2月 ビスフェノールF製造設備増設
- 2009年 1月 精製BHT(酸化防止剤)事業の開始

コア製品

次の条件を満たす製品をコア製品と位置付け

- ◆成長する市場がある
- ◆独自技術が活用できる
- ◆世界において高いマーケットシェアを有している



- ◆ビフェノール（液晶ポリマー原料）
- ◆フォトレジスト材料
- ◆クレゾール誘導品（トリメチルフェノール等）
- ◆特殊ビスフェノール（高機能樹脂原料）

2. 2009年3月期 実績

2009年3月期の事業環境

【前半】

原油価格の急騰

【+要因】

輸出：一部需要回復
国内：需要堅調

【+要因】半導体の需要回復

【-要因】LCDの需要伸び悩み

【+要因】

欧州・中国向け需要堅調

【+要因】

☆特殊ポリカーボネート用
自動車用品向け需要回復
☆特殊エポキシ用
BPFの需要拡大

【-要因】

☆特殊ポリカーボネート用
光学用電子部品向け需要減退

ビフェノール

フォトレジスト材料

クレゾール誘導品

特殊ビスフェノール

【後半】

原油価格
下落基調で推移

世界同時不況による
急激な景気悪化

ユーザーにおける生産
在庫調整によりすべての
製品需要が急激かつ
大幅に減少

2009年3月期 コア製品の販売状況

部門	コア製品	販売状況	
		前半	後半
高機能樹脂原料	ビフェノール	国内：堅調な需要を背景に好調に推移 輸出：競合他社との競争激化により不調が続いていたが一部で需要回復	世界経済の急激な後退・悪化に伴い、特に2009年1月以降において、国内外の当社ユーザーでの急速かつ大幅な生産・在庫調整により、すべての製品需要が急減し、販売は大きく落ち込み
	特殊ビスフェノール	<ul style="list-style-type: none"> ◆特殊ポリカーボネート用 自動車用部品向けは需要回復したものの、光学用電子部品向けは需要減退 ◆特殊エポキシ用 BPFの需要拡大 【生産能力増強】2000トン/年 ⇒ 4000トン/年 (2008年2月) 	
高機能化学品	フォトレジスト材料	半導体：需要回復により堅調な推移 LCD：需要伸び悩みにより販売減少	
	クレゾール誘導品 〔トリメチルフェノール〕	欧州向け：好調に推移・販売価格改定 中国向け：需要回復により堅調な推移	

トピックス

★精製BHT事業の開始

2009年1月 (株)エーピーアイ コーポレーションより
事業譲渡を受け、新設プラントの営業運転と販売を
開始

⇒原料クルードBHTからの
一貫生産体制確立による
クレゾール誘導品事業の基盤強化

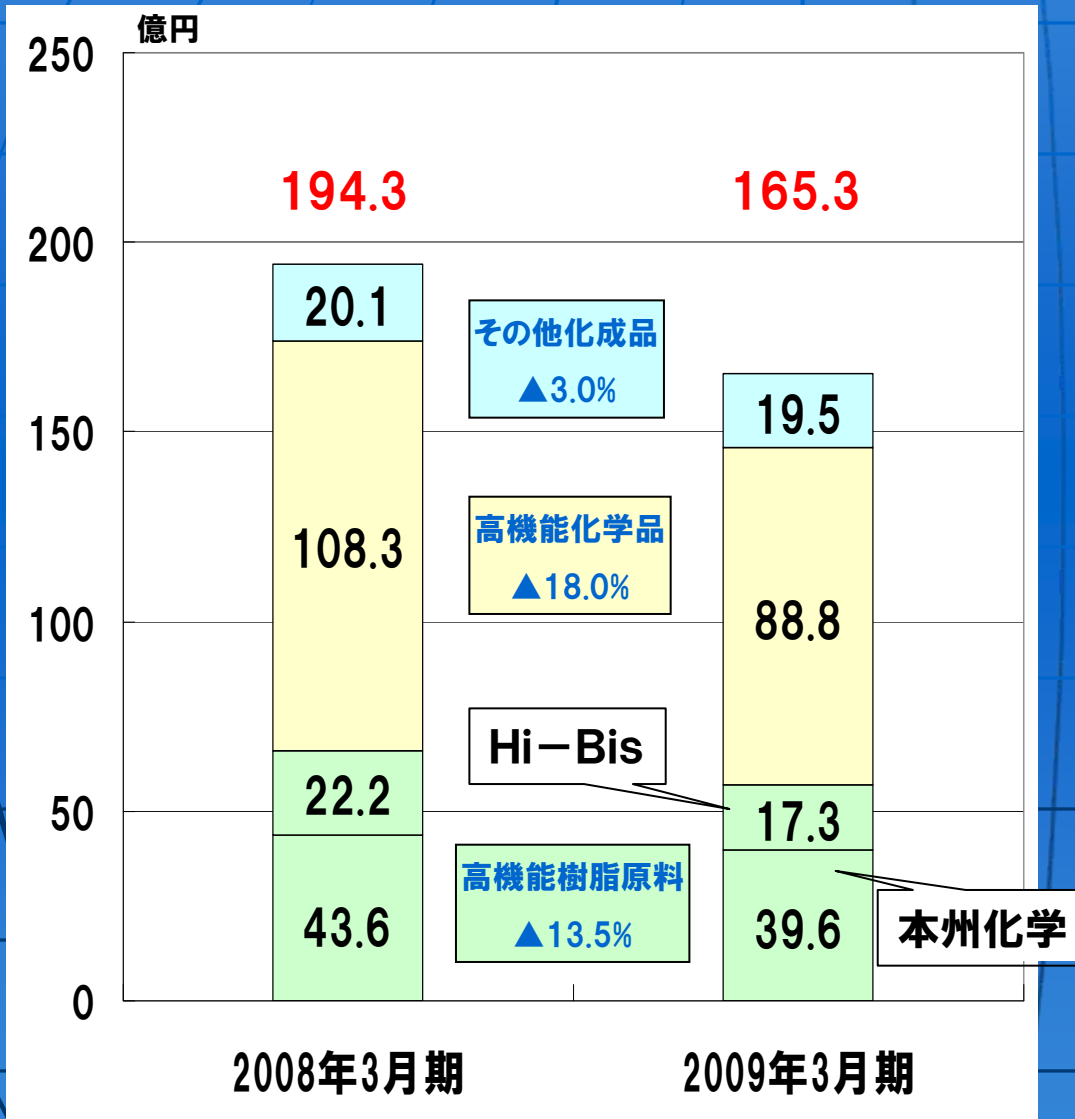


2009年3月期 連結業績概要

〈単位:百万円〉

	2008年3月期		2009年3月期		
	金額	対売上比	金額	対売上比	対前期比
売上高	19,430		16,531		▲14.9%
経常利益	1,703	8.8%	854	5.2%	▲49.8%
当期純利益	767	3.9%	402	2.4%	▲47.5%
1株あたり 当期純利益	66.80円		35.07円		

売上高(連結)



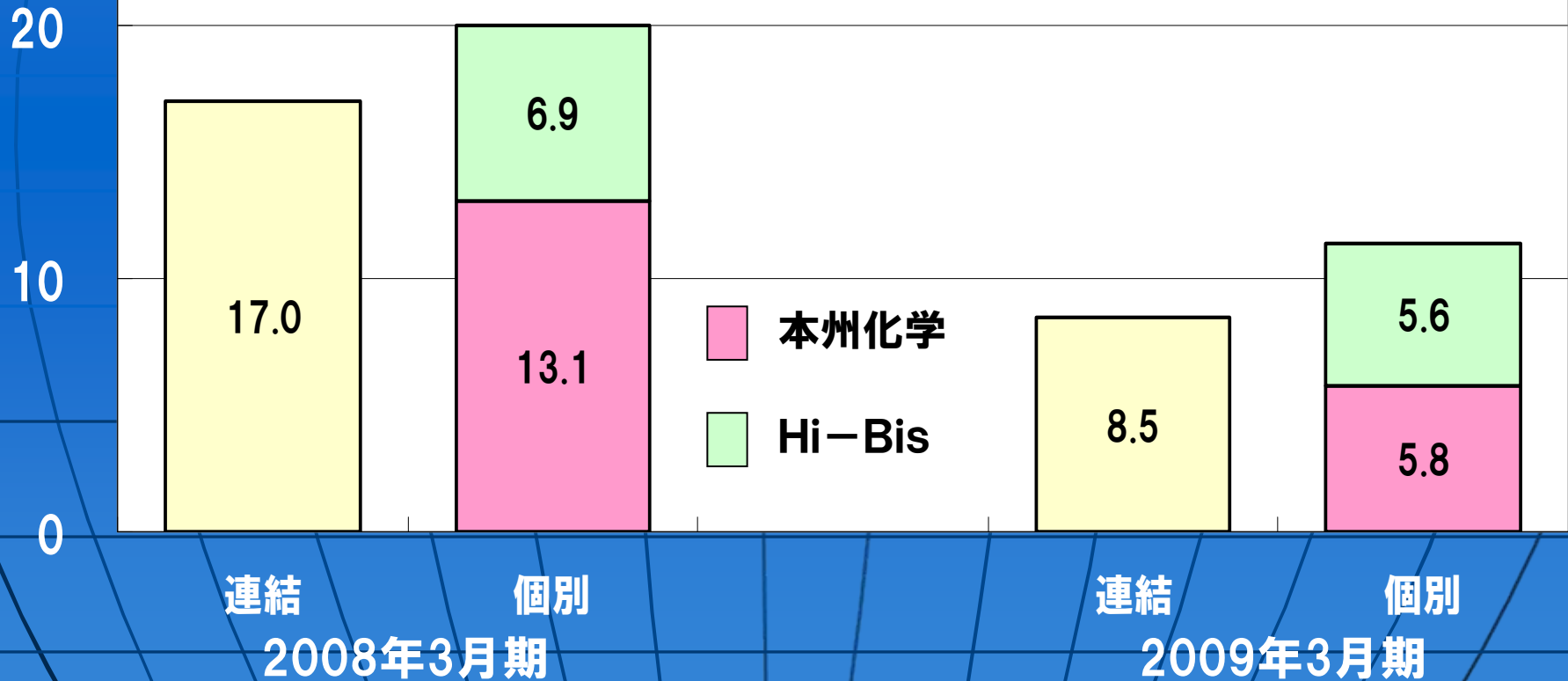
コア製品の需要動向	
ビフェノール	→
特殊ビスフェノール	↘
フォトレジスト材料	↘
クレゾール誘導品	↘

売上高	
対前期比	▲14.9%
変動要因	
価格差	5.2億円
数量差	▲34.1億円
合計	▲28.9億円

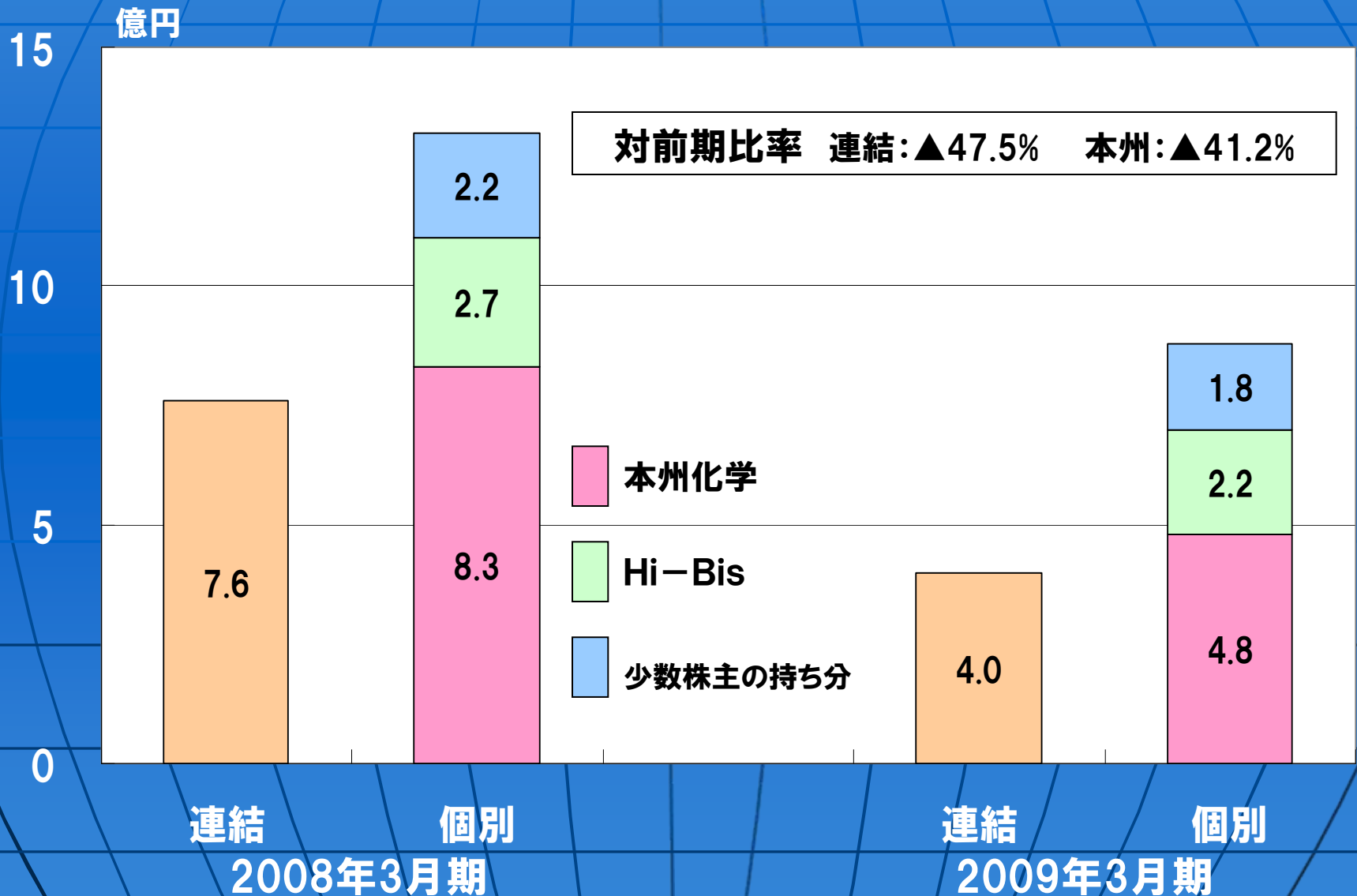
経常利益(連結)

30 億円

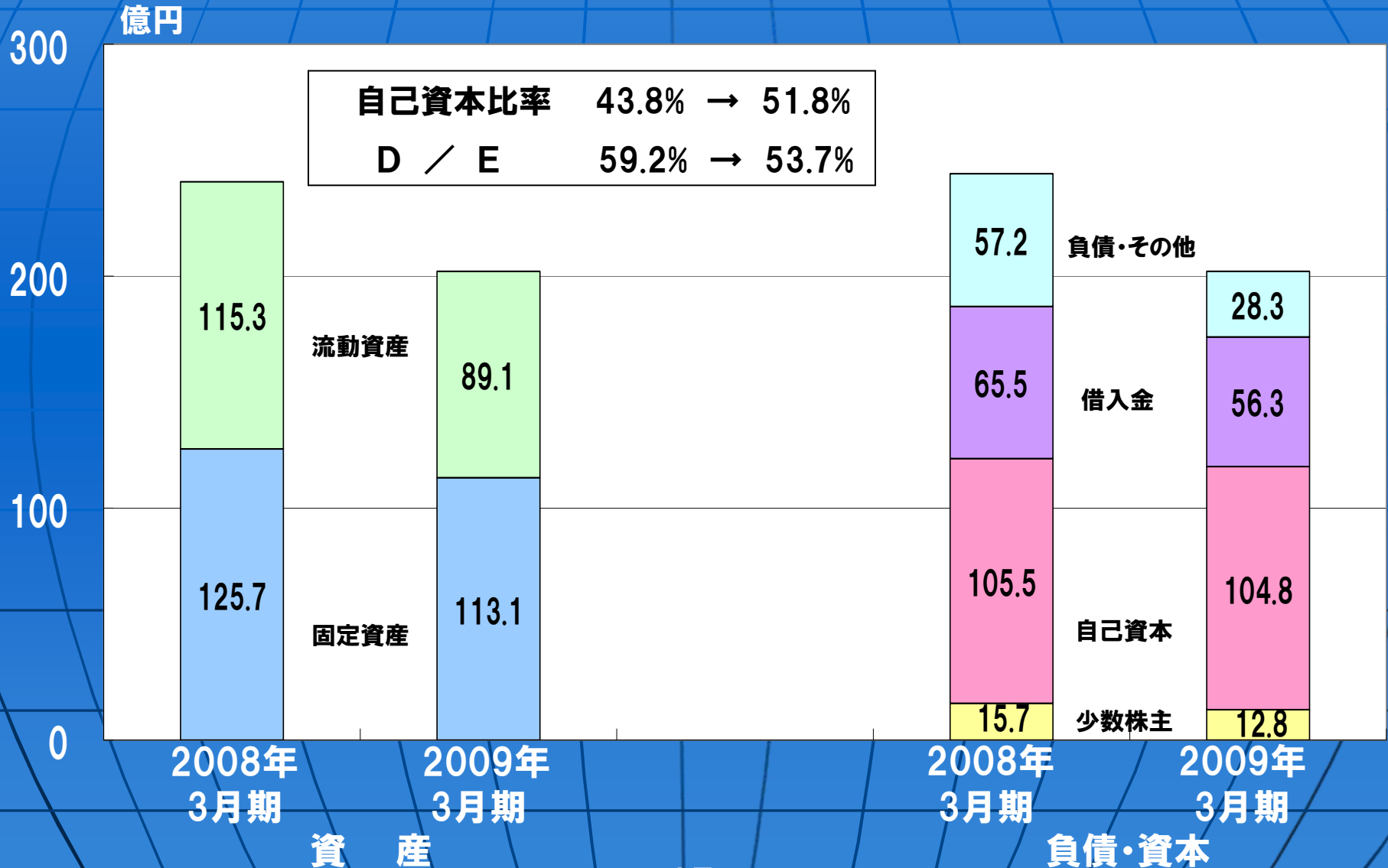
対前期比率 連結: ▲49.8% 本州: ▲55.4%



純利益(連結)



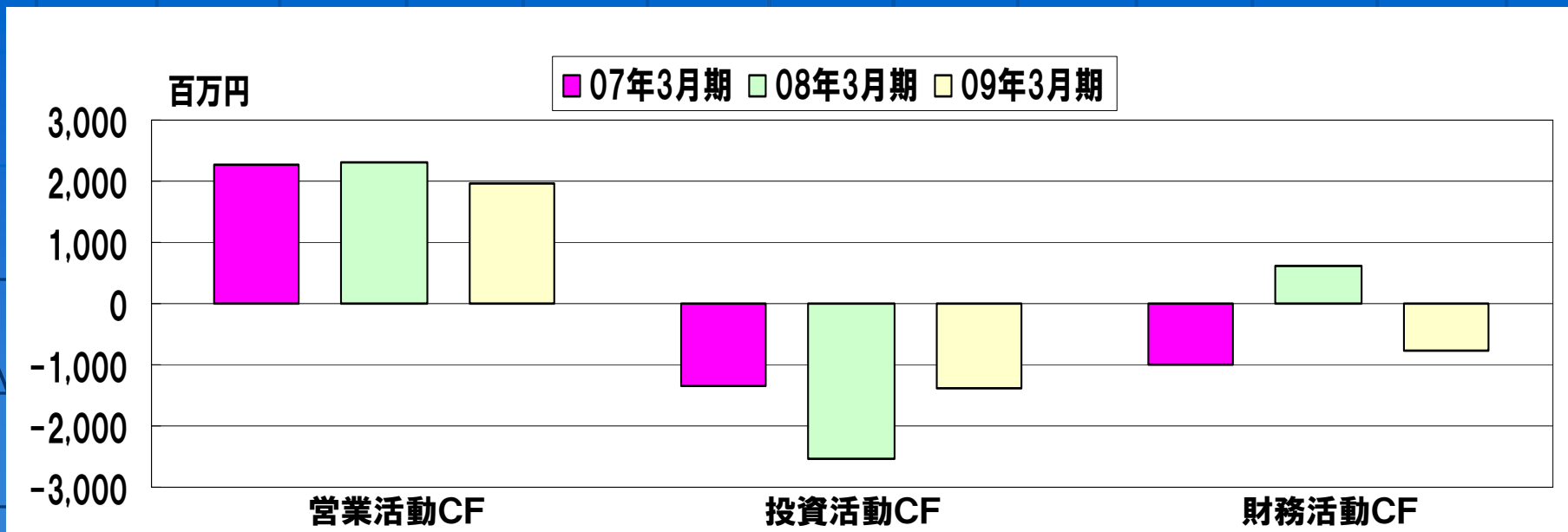
貸借対照表(連結)



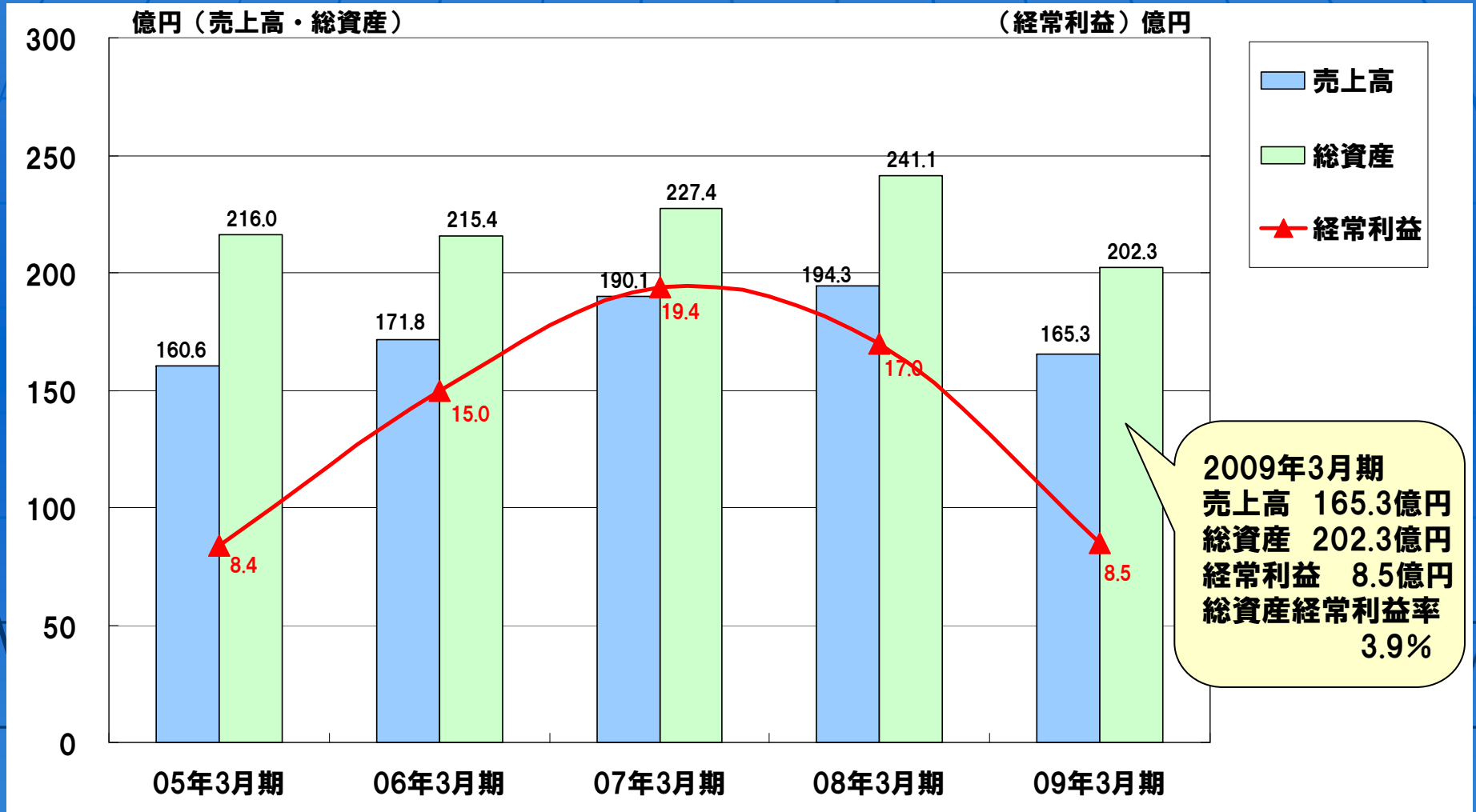
キャッシュフロー(連結)

＜単位：百万円＞

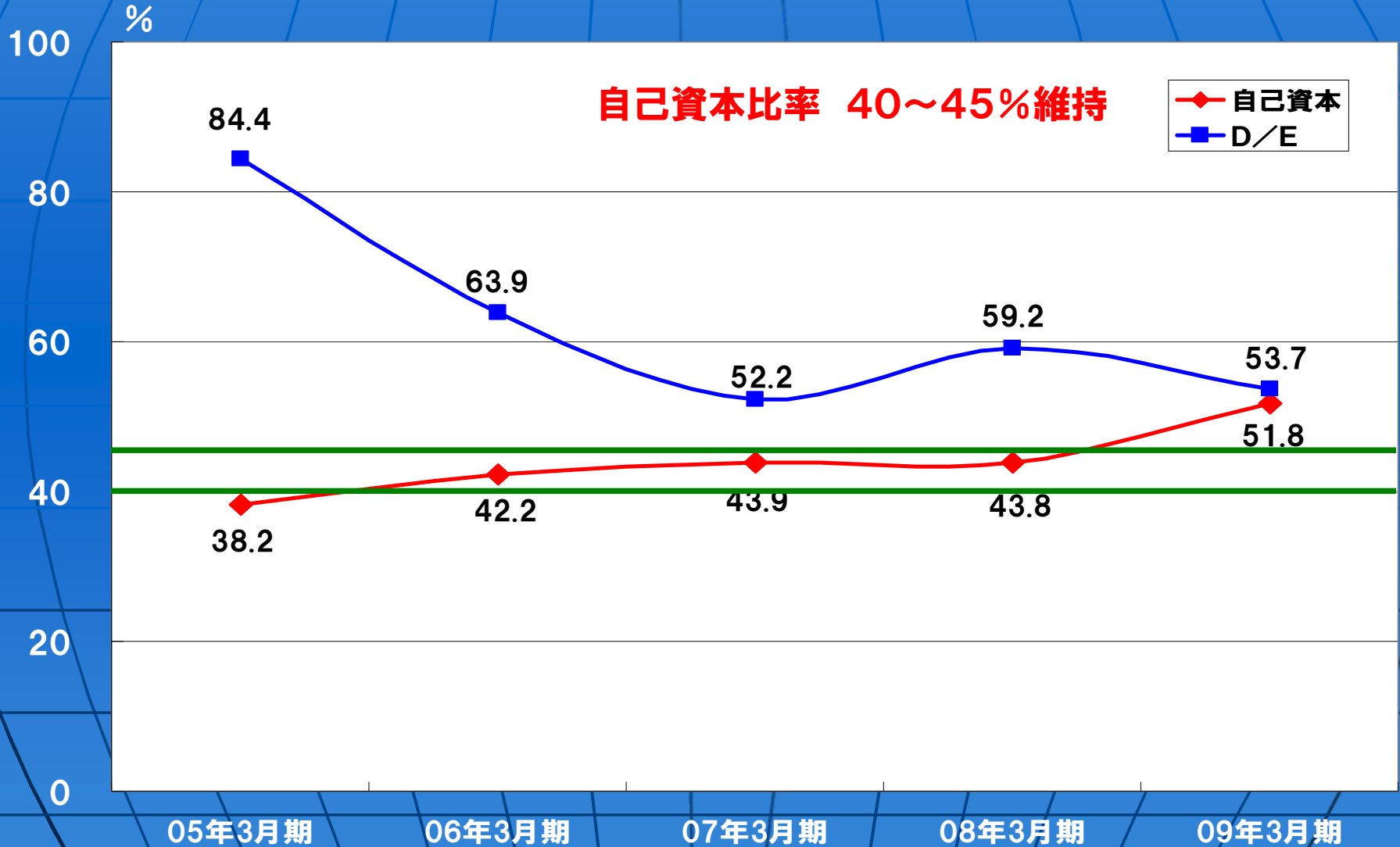
項目	2008年3月期	2009年3月期
I. 営業活動によるキャッシュフロー	2,290	1,966
II. 投資活動によるキャッシュフロー	▲2,555	▲1,374
III. 財務活動によるキャッシュフロー	627	▲770



売上高・総資産・経常利益の推移（連結）

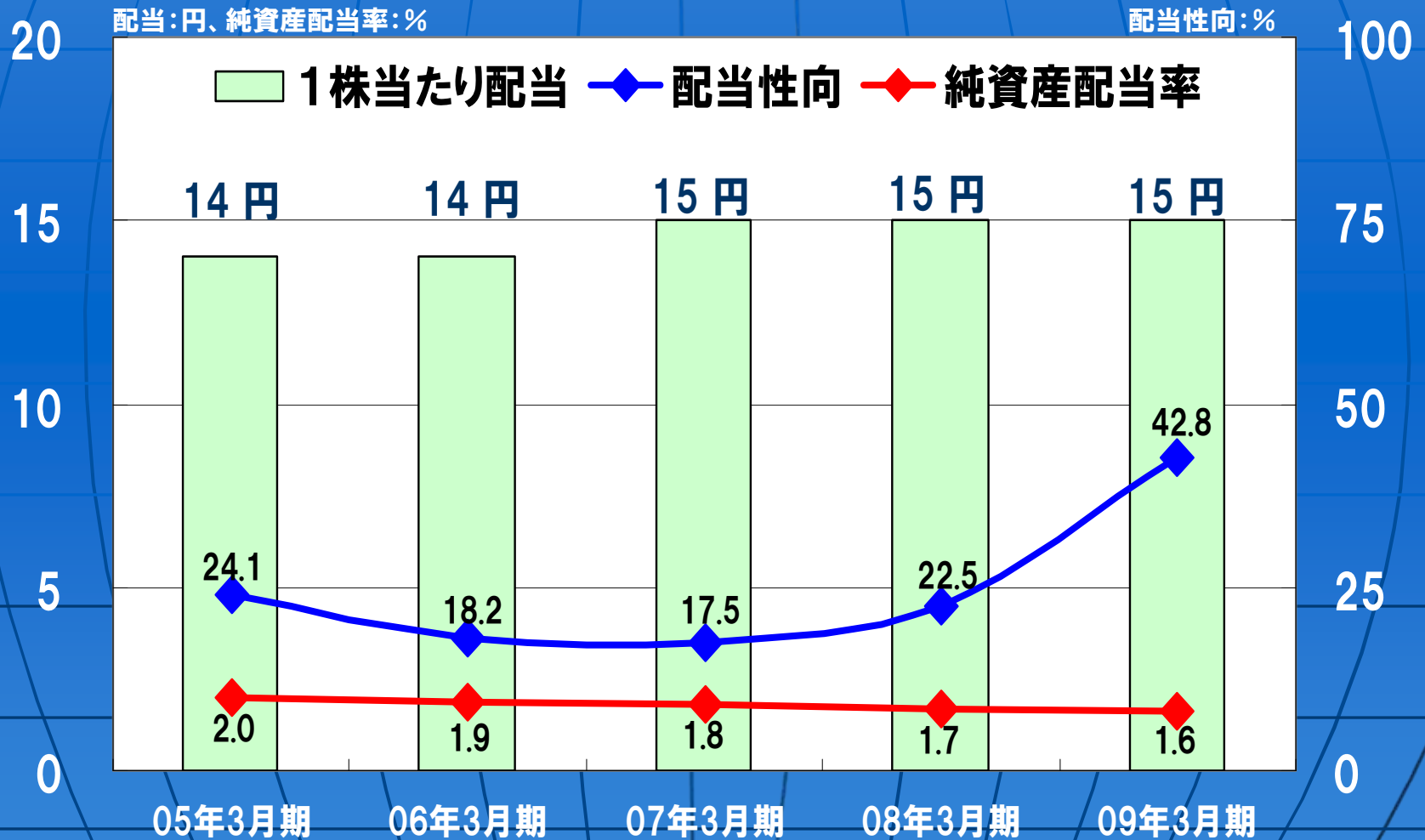


自己資本比率・D/Eの推移（連結）



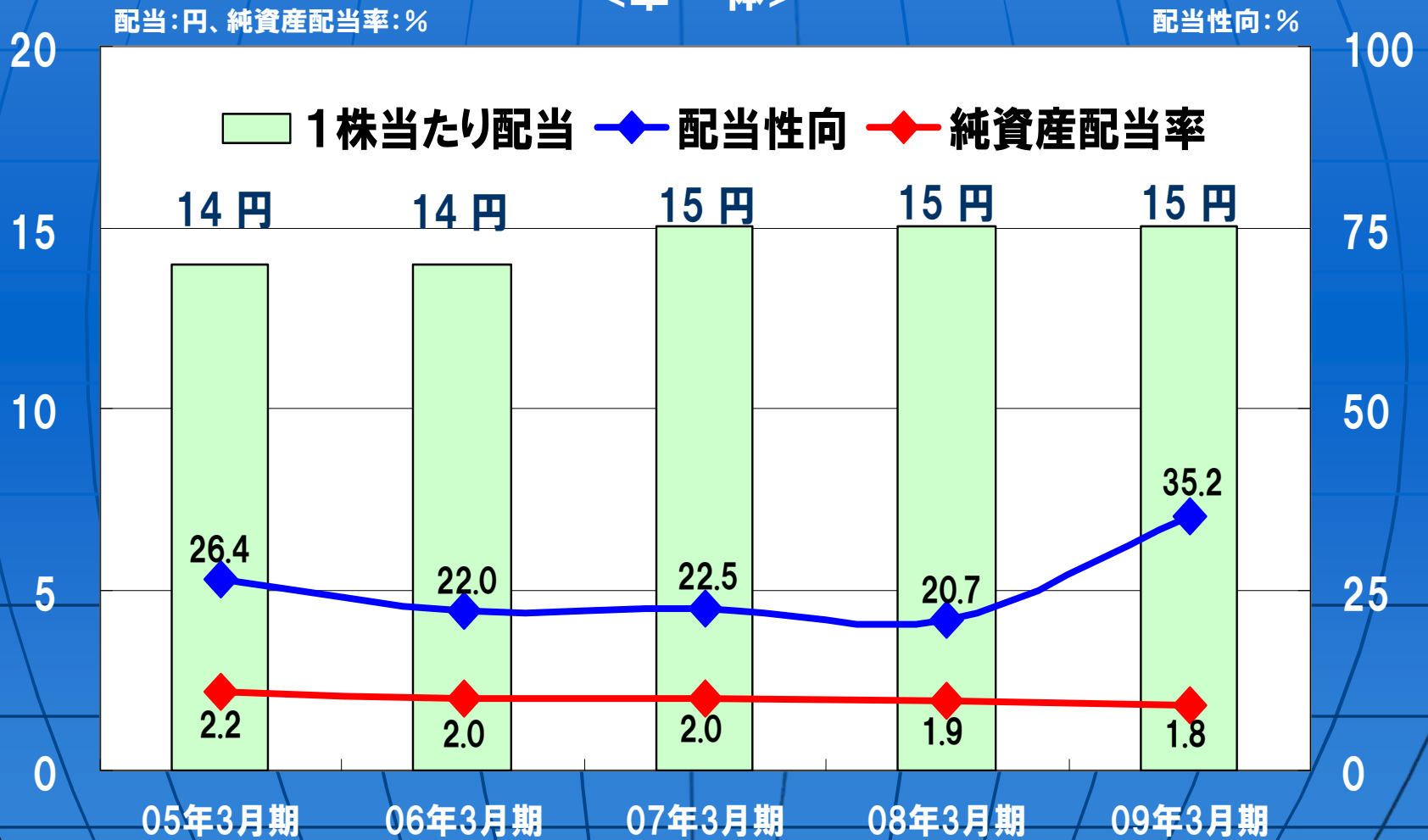
配 当 年間15円（中間6円／期末9円予定）

<連 結>



配 当 年間15円（中間6円／期末9円予定）

<単 体>



3. 2010年3月期 見通し

2010年3月期における収益改善対策の実施

今後も製品の需要回復が期待できず極めて厳しい事業環境のまま推移するものと予想されるため、次の収益改善対策を実施

① コストダウンの徹底強化

- ★総額人件費の削減 ⇒ 役員報酬、社員給与の減額を緊急に実施
- ★経営全般にわたる諸経費削減
- ★プロセスの改善・合理化による製造原価の低減

② キャッシュフロー改善

- ★新規設備投資の削減 ⇒ 投資案件の見直しと重点選別
- ★在庫の削減

③ 新規製品の早期上市

研究開発の重点化とスピードアップ ⇒ 総合研究所の組織改正(2009年4月)

④ 人員計画の見直し

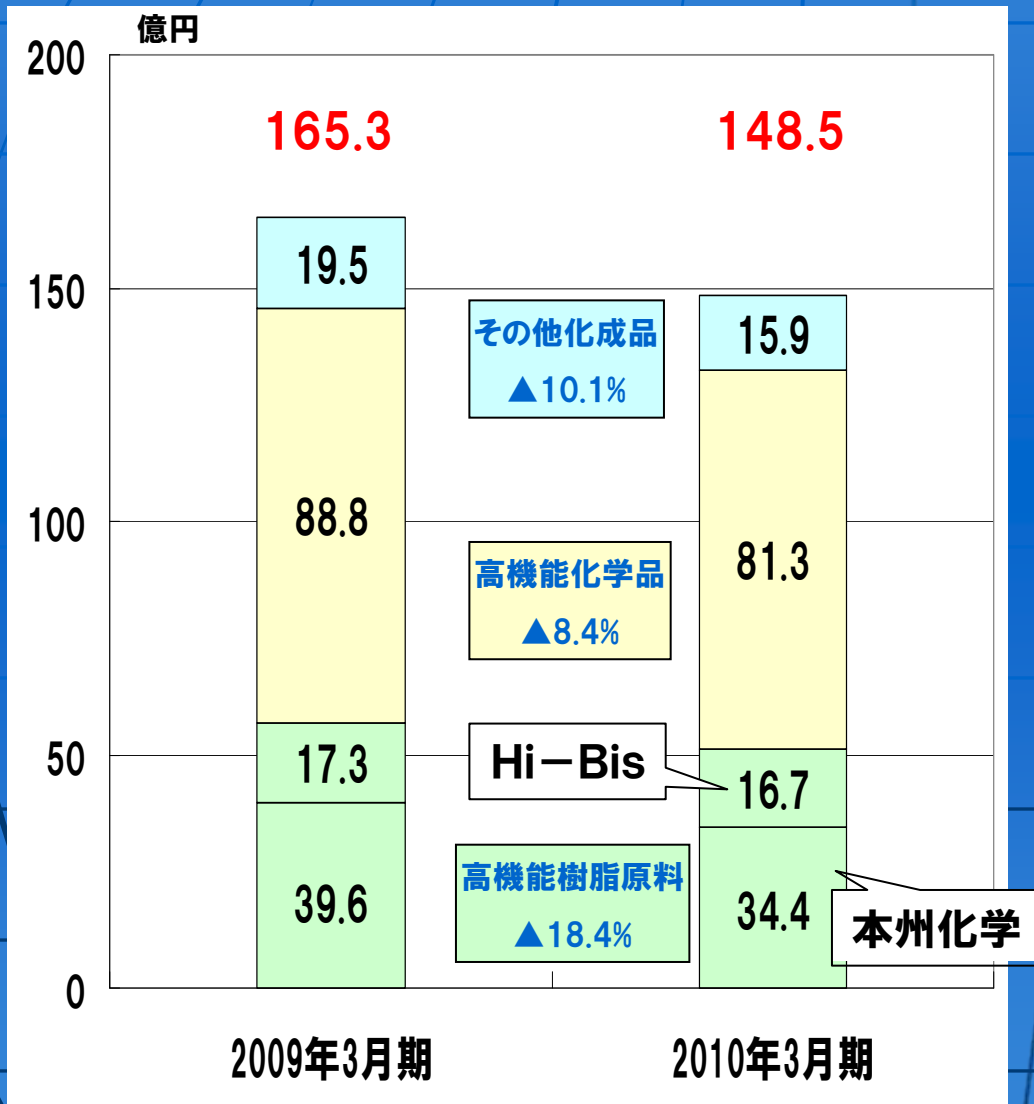
効率的・効果的な経営資源の投入を図るため、人員計画を見直し

2010年3月期 通期業績見通し(連結)

＜単位：百万円＞

	2009年3月期		2010年3月期		
	金額	対売上比	金額	対売上比	対前期比
売上高	16,531		14,850		▲10.2%
経常利益	854	5.2%	70	0.5%	▲91.8%
当期純利益	402	2.4%	▲170	—	—
1株あたり 当期純利益	35.07円		▲14.80円		

売上高(連結)



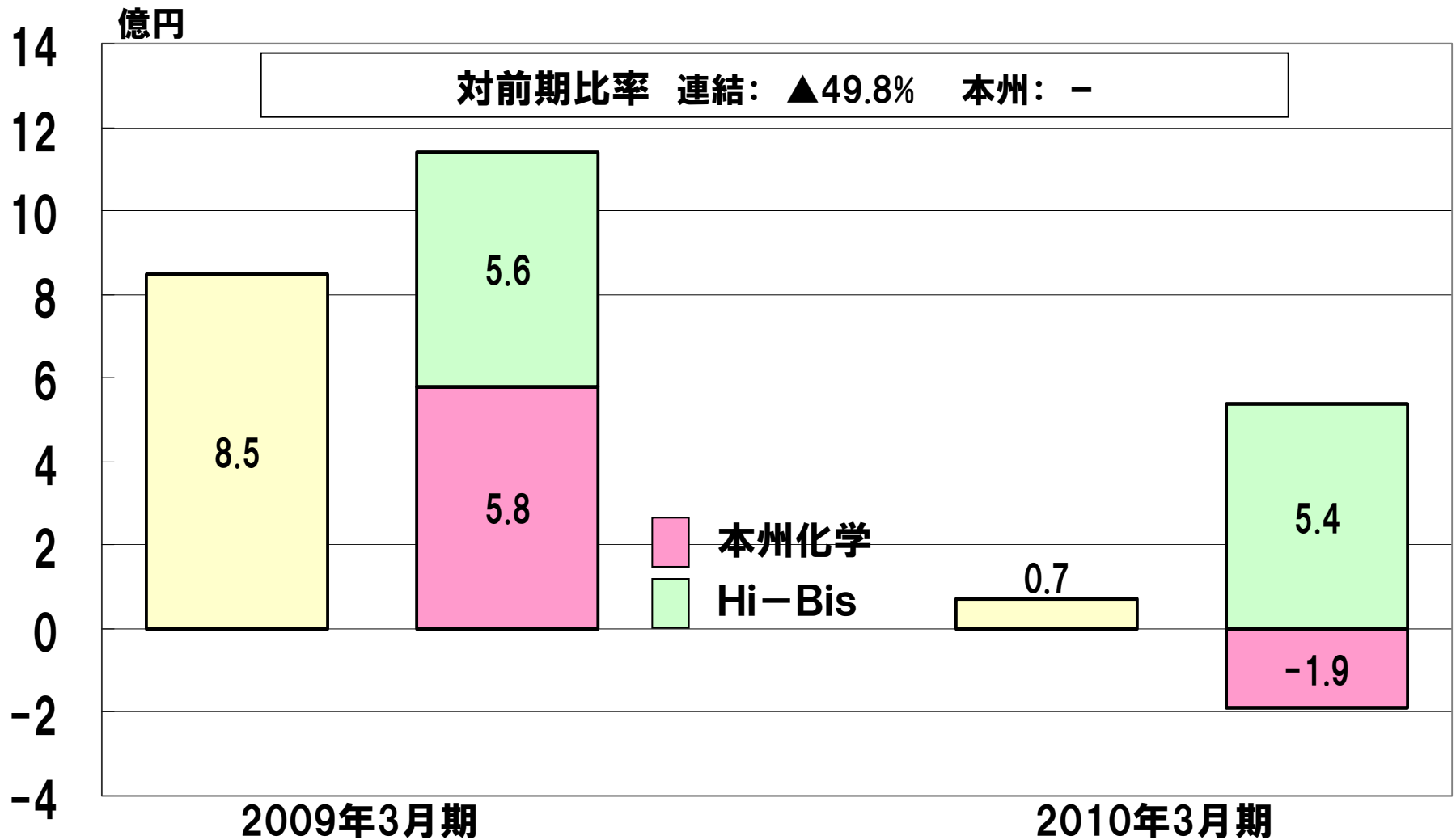
コア製品の需要動向

ビフェノール	↓
特殊ビスフェノール	↓
フォトレジスト材料	↓
クレゾール誘導品	↓

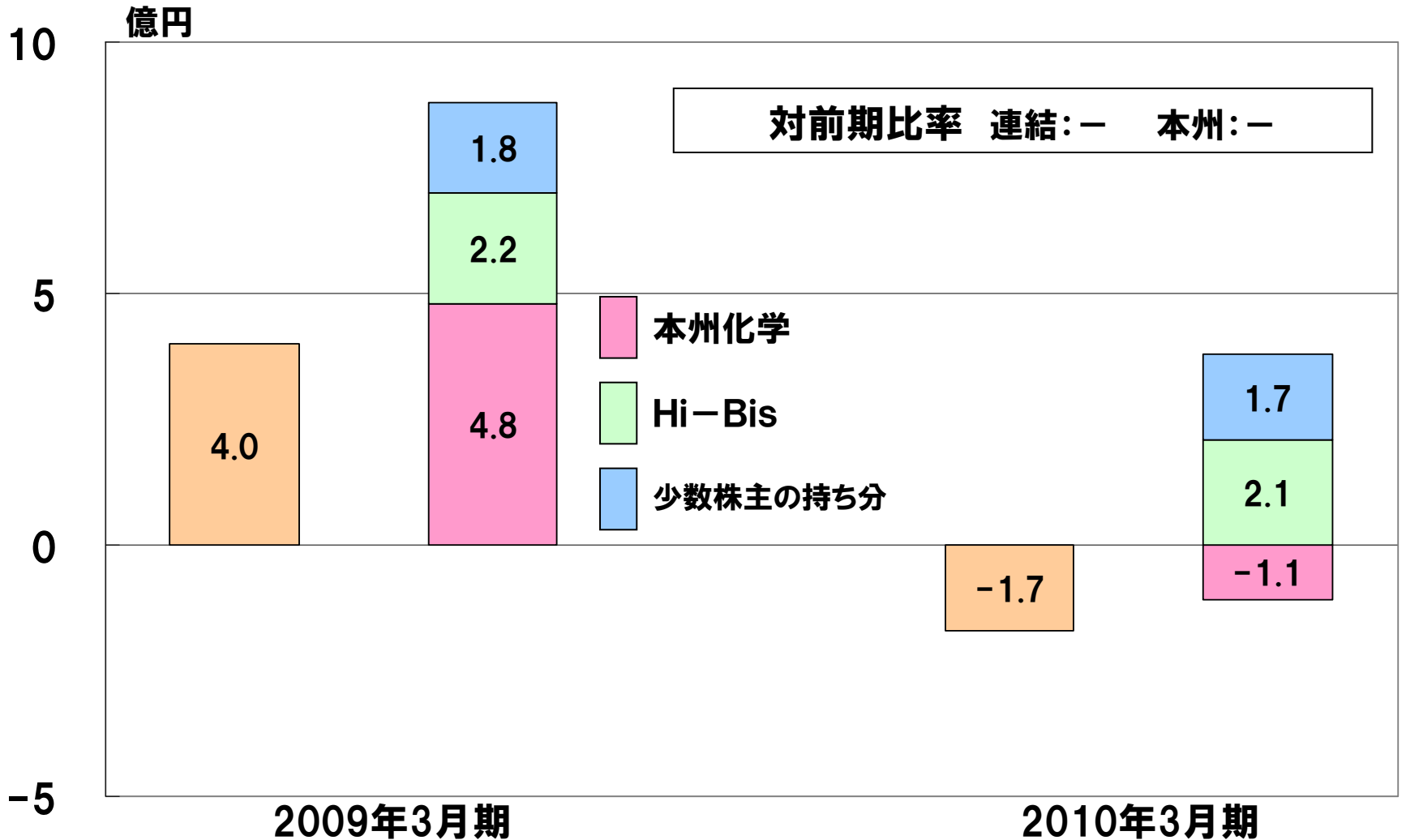
売上高

対前期比	▲10.2%
変動要因	
価格差	▲16.1億円
数量差	▲0.7億円
合計	▲16.8億円

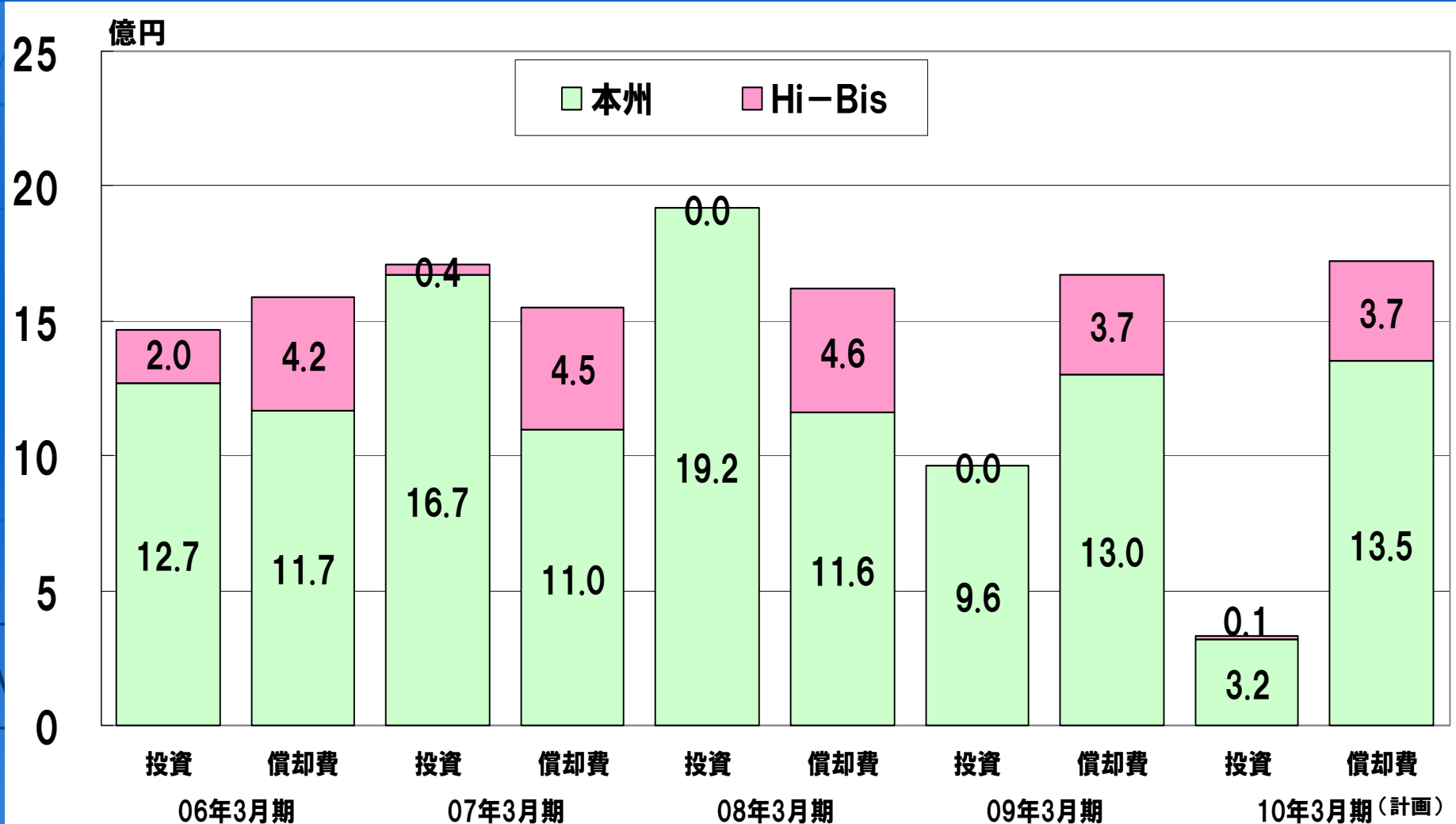
経常利益(連結)



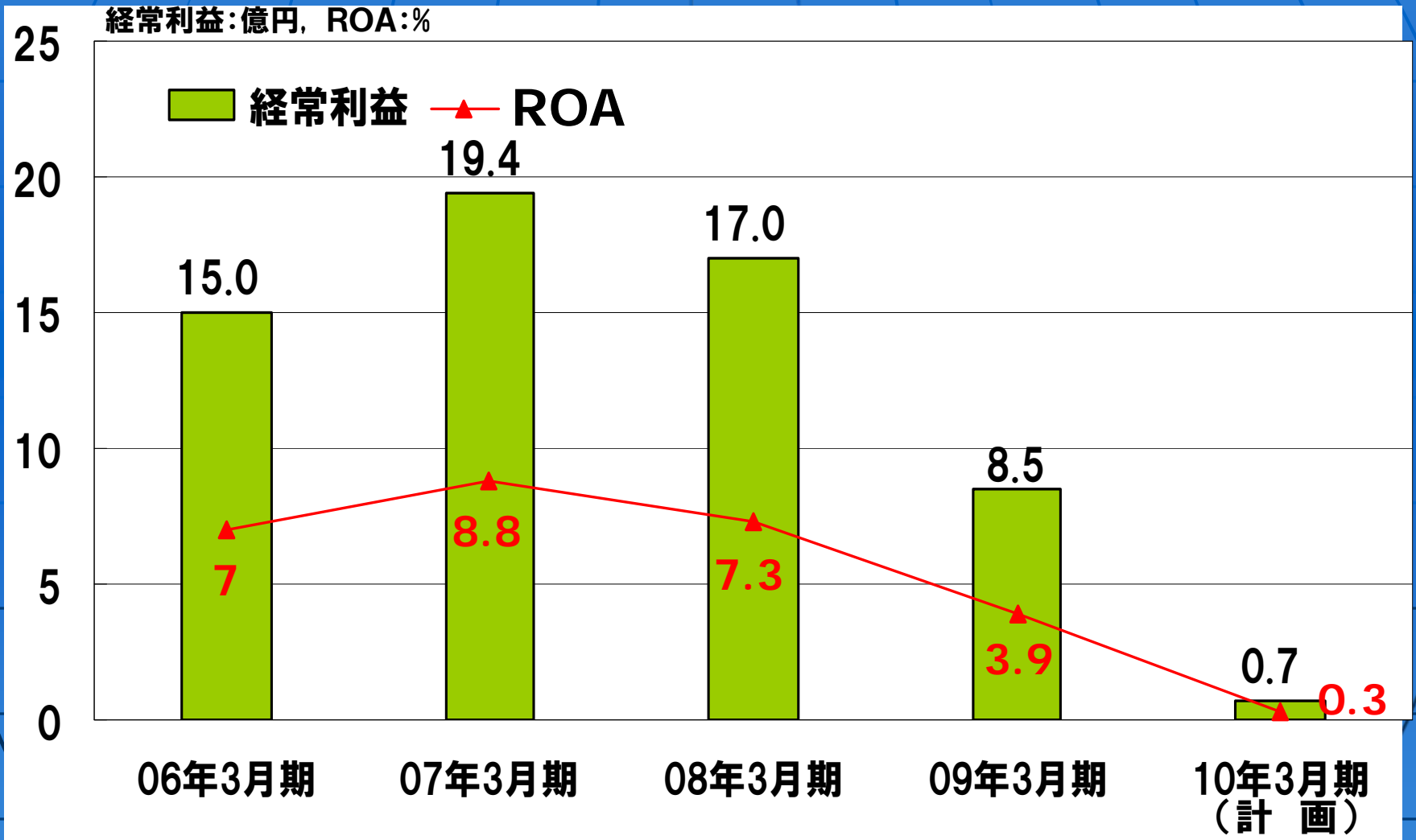
純利益(連結)



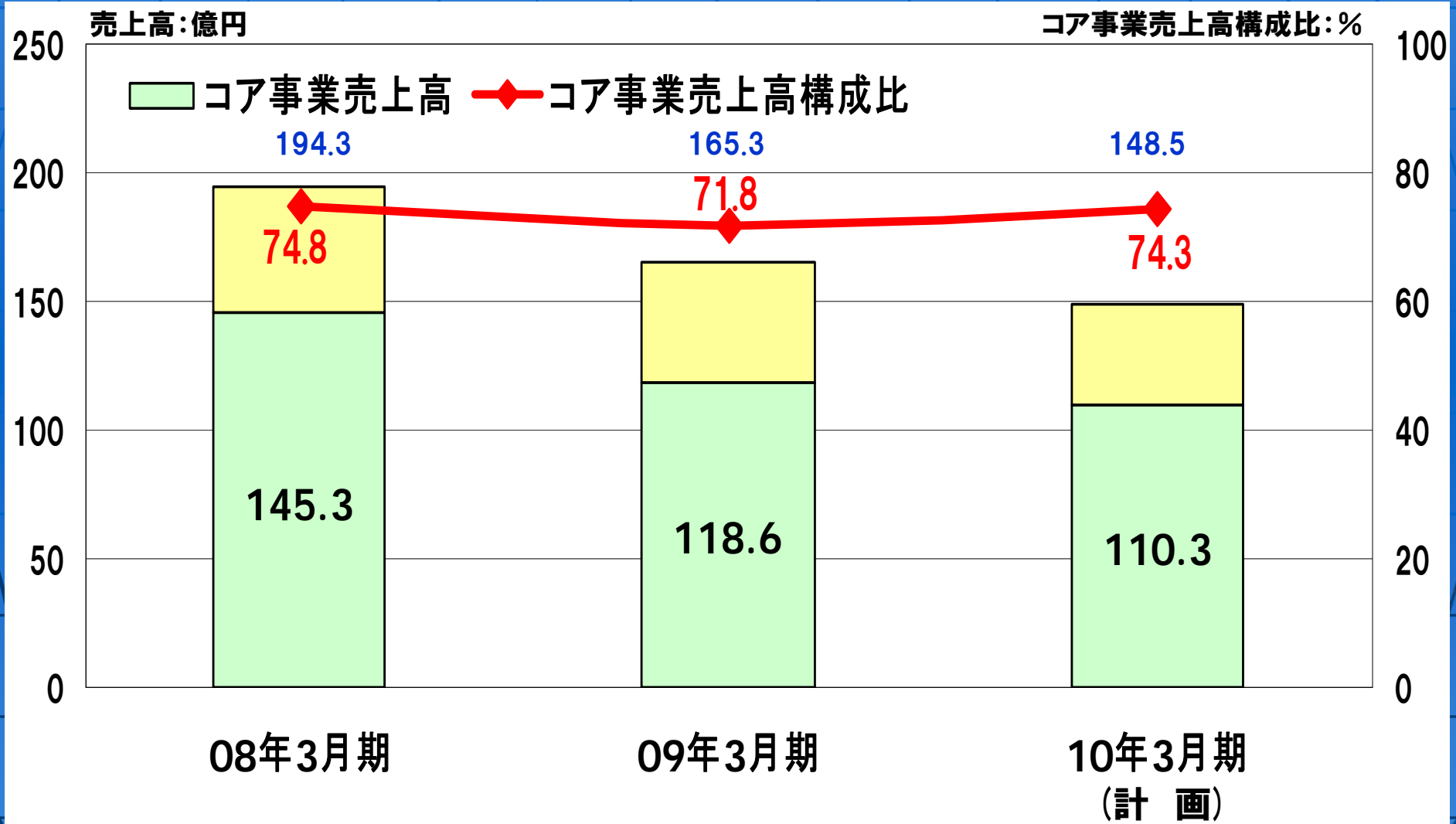
投資（連結）



計数目標（連結）



コア製品の強化・拡大



＜お問合せ先＞

本州化学工業株式会社

人事総務部 古庄英昭

経 理 部 和智達也

TEL : 03-3272-1481
FAX : 03-3272-1480
e-mail : ir@honshuchemical.co.jp
URL : <http://www.honshuchemical.co.jp/>

本資料における将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用下さい。